

# 青丘文庫研究会 月報 No.209 2006年12月1日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生青年センター内  
TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 http://ksyc.jp/sb/ e-mail hida@ksyc.jp

①在日朝鮮人運動史研究会関西支部会 (代表・飛田雄一)

②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)

郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料3000円

※他に、青丘文庫に寄付する図書の購入費として2000円/年をお願いします。

## 一枚の賞状の写し

横山篤夫

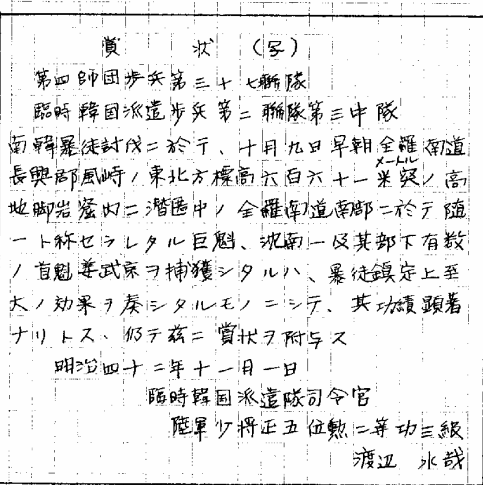
一枚の賞状の写しがある。1909年(明治42)11月24日に、当時の大阪府泉南郡役所は、泉南郡北中通村(現在泉佐野市)村長宛にコンニャク版の「佐竹大尉が遠山中佐死」者簡と賞状の手を送付した。「南韓暴徒大討伐」の際の泉南郡出身兵士の活躍を知らせるためである。

発信者の佐竹大尉は、第四師団歩兵第三十七聯隊第十二中隊の中隊長であった。同中隊は1909年5月23日に、臨時韓国派遣隊に編入された。佐竹大尉の書簡を受け取った遠山中佐は、歩兵第三十七聯隊の徴兵事務を担当した責任者と推定される。そして遠山中佐は、この書簡をたく知らせよう、徴兵区域の市と郡役所に写しを送ったのであろう。

1909年7月6日、第二次桂太郎内閣は閣議に於て「韓国併合」の方針を決定した。1907年の第三次日韓協約により、日本は韓国内政権を掌握し、韓国軍隊を解散させた。韓国ではこれに抵抗する義兵闘争が広がった。この闘争を鎮圧し、「韓国併合」を実現するために進めた作戦の一部が「南韓暴徒大討伐」であった。歩兵第三十七聯隊の派遣された兵士たちは、この第一線に義兵と戦ったのである。佐竹大尉の書簡によると、「獲韓其任務ニ就シ以来、貴聯隊区出身者ノ刻苦勤助ニ依リ守備ノ任ヲ全フシ、今回ノ南韓暴徒大討伐ニ於テハ別紙ノ如キ賞状ヲ得、不肖此ノ上ナキ面目ヲ得申候」と述べ、義兵の指導者を全羅南道の山中で「捕獲」し、功績を称えている。そしてこうした功績をあげられたのは、「係ニ貴聯隊区出身者ノ活動ト、貴官ノ常口□□ヲ与ヘラル」結果ニ外ナラス候、茲ニ別紙賞状及御送付候間、一般父兄及町村有志ハ御披露被成候」と書簡作成の意図を説明している。

「韓国併合」への動きは、政府の外交駆け引きのみで作られていたのではなかった。日本軍の不逞地を進める作戦行動の過程で、地域出身兵士の中隊の「名誉」が行政機関を通じて「別紙写ノ通り其ノ簡ヨリ送付候ニ付、御券考込及送付候也」と町村に通知された。「韓国併合」への動きは、日本軍の作戦行動を通じて町村の兵士の留守家族と町村の有力者に及んでいた。

『月報』No.208巻頭エッセーで水野直樹さんが紹介されたような巨大な石碑ではなく、兵士の留守家族や地域の有力者の家々には、「韓国併合」の言葉が「紙碑」があったことを一枚の消えかけたコンニャク版賞状が示しているのではなうかと思う。この書簡と賞状は、未春刊行予定の『新修泉佐野市史』史料編、近現代に収録される。



朝鮮近現代史研究会 2006年10月8日

## 済州 4・3 運動と特別法、そして 21 世紀 趙誠倫(済州大学校 教授・社会学)



韓国現代史において済州 4・3 事件は最も大きな事件の一つであったが、数十年間歴史の闇に埋没させられてきた。反共を国是とし北朝鮮政権と対立してきた歴代の軍事独裁政権下で、済州 4・3 事件は口にできないタブーであった。

しかし、ある程度の経済発展が達成された 1980 年代後半、民主化運動の高まりとともにこうしたタブーは打ち破られていった。そして 4・3 運動が始まる。4・3 運動とは、4・3 事件の実態・真相を明らかにし、不当に殺された人々の名誉を回復する作業までを包括的に解決しようとする集団的な運動である。この運動は済州大学の学生たちから始まり、市民団体へと広がった。

この運動が大きく広がる過程において、在野団体として結成された 4・3 研究所の調査活動、さらには新聞(初めは「済州新聞」で「済民日報」へとつながる)の 4・3 企画チームが、「4・3 を話す」という毎週の連載を 10 年間にわたり継続したことが、決定的な役割を果たした。その結実として、2000 年 1 月に『済州 4・3 事件真相糾明および犠牲者名誉回復に関する特別法』が制定された。

この法律に基づき、済州 4・3 事件真相糾明および犠牲者名誉回復委員会が構成され、活動が開始された。その活動は、済州 4・3 事件真相糾明調査報告書の作成であり、犠牲者および遺族の申告であった。調査報告書は、資料収集において軍や警察署の消極的な対応もあったが、2 年余にわたる研究・調査の末、2003 年 10 月に確定された。この報告書のに基づき、盧武鉉大統領が公式謝罪した。過去の大量虐殺事件中、最初に国家元首が対国民謝罪したことの意味は大きい。

犠牲者および遺族の申告では、犠牲者範囲決定の過程で深刻な意見対立があったが、現在までに 14,373 人が被害者申告をした。しかし、申告しない人も多いのが現状で、とりわけ社会的に成功して比較的安定した地位にある人が申告しない傾向にある。

こうした事業と並行して、名誉回復事業として 4・3 平和公園および資料館の建設が進められた。これまで第一段階である追悼慰霊施設は完成し、第二段階の資料館も 2008 年には完成予定である。

このように、4・3 問題の解決の主導権は政府の手に渡されたが、相対的に在野団体などの運動は弱くなった。ここで、今後の 4・3 運動の課題についていくつか挙げてみたい。

一つは、「共産暴動」とも「民衆抗争」とも呼ばれてきた 4・3 の正しい呼称の確定である。また、4・3 以後 50 余年にわたって住民たちの人生に大きな影響を及ぼしてきた肉体的・精神的傷の実態を究明する研究である。こうした研究は非常に重要であるにもかかわらず、これまではほとんど取り組まれてこなかった。

平和公園および資料館では、歴史的教訓を後世に正確に伝えるとともに、済州島を平和の島として発信できる象徴的なものでなければならない。また、4・3 運動と他地域での虐殺真相糾明運動との連帯も必要である。最後に、慰霊祭の形式化や遺族会幹部と 4・3 運動団体の官辺化をいかに克服していくかという課題も挙げておきたい。(まとめ/堀内稔)

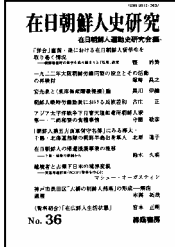
# 在日朝鮮人史研究36号 (在日朝鮮人運動史研究会編、緑陰書房、2520円)

特価2000円+送料160円=2160円でお分けします。

ご希望の方は、郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>にご送金ください



- ・ 「併合」直前・後における在日朝鮮人留学生を取り巻く状況
- ・ 一朝鮮総督府の留学生取り締まりと「収容」政策— へ始美
- ・ 一九二二年大阪朝鮮労働同盟の設立とその活動の再検討 塚崎昌之
- ・ 安光泉と<東洋無産階級提携>論 黒川 伊織
- ・ 朝鮮人戦時労働動員における民族差別 古庄 正
- ・ アジア太平洋戦争下日曹天塩鉱業所朝鮮人寮第一・二尚和寮の食糧事情  
守屋 敬彦
- ・ 「朝鮮人第五方面軍留守名簿」にみる
- ・ 樺太・千島・北海道部隊の朝鮮半島出身軍人 北原 道子
- ・ 在日朝鮮人の帰還援護事業の推移—下関・仙崎の事例から 鈴木 久美
- ・ 越境者と占領下日本の境界変貌
- ・ 一英連邦進駐軍 (BCOF) 資料を中心に マシュー・オーガスティン
- ・ 神戸市長田区「大橋の朝鮮人部落」の形成—解消過程 本岡 拓哉
- ・ <資料紹介> 「在広鮮人生活状態」 宮本 正明



## <新刊紹介>



篠山市人権・同和教育研究協議会編  
 「デカンショのまちのアリラン  
 篠山市&朝鮮半島交流史」

神戸新聞出版センター 2006.12 2100円

青丘文庫研究会の金慶海さん、藤井幸之助さんも執筆しています。

李修京編

「韓国と日本の交流の記憶  
 日韓の未来を共に築くために」

白帝社 2006.11 2310円





## 青丘文庫研究会のご案内

日程にご注意ください。

### 第245回朝鮮近現代史研究会

1 2月24日(日)午後3時～5時

『歴史物語朝鮮半島』(朝日選書)の仕事のなかで考えたこと

姜在彦

### 第287回在日朝鮮人運動史研究会関西支部

1 2月24日(日)午後1時～3時

解放後の在日朝鮮人運動と朝鮮史研究 50年代を中心に

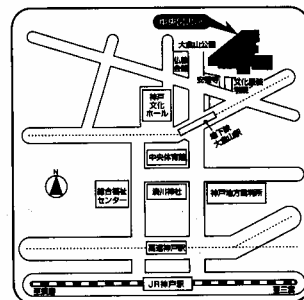
宇野田尚哉

終了後、忘年会をひらきます。(おそらく神戸駅前「和民」)

会場 神戸市立中央図書館内 青丘文庫

神戸市中央区楠町7-2-1 TEL 078-371-3351

(地下鉄大倉山駅下車すぐ、JR神戸駅北10分)



## 【今後の研究会の予定】

次回は、2007年1月14日、在日・高仁鳳、近現代史・金慶海。2月11日、在日未定、近現代史・河原典史、3月11日、在日・高野昭雄、近現代史・李景珉。研究会は基本的に毎月第2日曜日午後1～5時に開きます。報告希望者は、飛田または水野までご連絡ください。

## 【月報の巻頭エッセーの予定】

1月号以降は、山地久美子、伊地知紀子、稲継靖之、宇野田尚哉、金誠、佐藤典子、佐野通夫、田部美智雄、張允植。よろしくお願ひします。締め切りは前月の10日です。

## 【編集後記】

- ・ 師走になってしまいました。1年が早いです。まあ、仕方がないので忘年会をいたしましょう。
- ・ 2006年も充実した2つの研究会がもてたと思います。夏には済州島でのフィールドワークおよびシンポジウムも開催することができました。月報に出来るだけ報告を載せるようにしたいと思っています。研究会で発表された方は報告原稿を飛田までよろしくお願ひします。
- ・ 巻頭言の横山さんの原稿は、丁寧な原稿なので、ずぼらをしてそのまま利用させていただきます。
- ・ 青丘文庫月報は、メールでも配信しています。ご希望の方は、飛田まで申し込みをよろしくお願ひします。(飛田、hida@ksyc.jp)

